

33号

5年1月23日

CEOメッセ

#### 33号欧州木材産業の現状—4

EU25カ国統合によるヨーロッパGDPは、西ヨーロッパは成熟、東ヨーロッパは発展途上全体では低成長である。人口の伸び率も期待できない。このような低成長下のなかではこのままでは木材の消費拡大が望めず新たな需要拡大政策が必要だ。

年間の森林成長量が伐採量を上回り、森林量は年間80万ヘクタール増大している現状だ。ヨーロッパ以外の新しい市場の開発が急務である。

34号

5年1月23日

CEOメッセ

34号欧州木材産業の現状—5

新しい市場の開拓

ヨーロッパの木材産業にとって最大の顧客は日本である。日本向けの製材品とプレーナー加工材の実績合計は1993年はゼロ2003年度には約272万m<sup>3</sup>と、爆発的に増加した。アメリカ、カナダ材から品質、価格、機能にも優位なヨーロッパ材に変わったのである。

35号

5年1月30日

欧州木材産業の現状—6

ストラエンソ (Stora Enso)

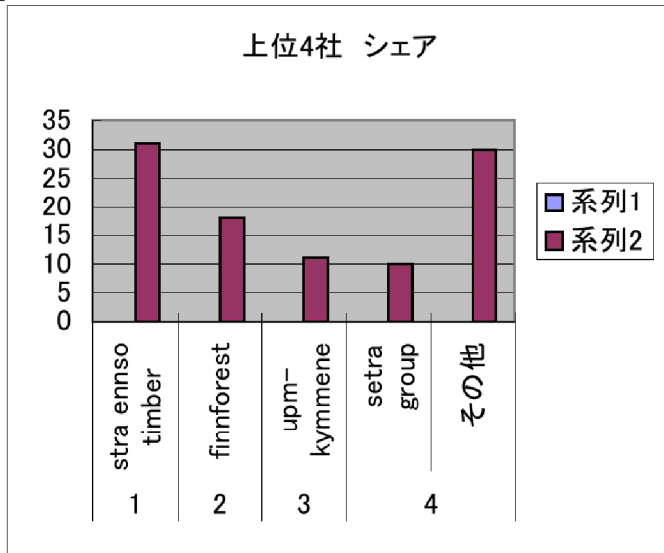
世界第二位の木材メーカーストラエンソの資料を入手した。ご参考にと要旨を発信する。ストラエンソとは1988年にスウェーデンのストーラと、フィンランドのエンソが合併してストラエンソが誕生した。欧米の木材企業は、製紙が企業を中心であり、木材はその下に付いた附属の部門との位置付けである。グローバル企業としてのストラエンソは、資本金93億ユーロ、従業員4万3千人、ヘルシンキ、ニューヨークに株式上場している。工場は、ロシア、バルト3国、中欧、北欧を中心に展開している。

細田通信 36号  
 欧州の木材動向  
 ストラエンソー2

世界第2位の木材会社であるストラエンソーは欧州でもNO1の木材会社だ  
 世界的に企業の合併が進みビッグ企業が続々と誕生している  
 欧州ではこの傾向が特に強く、上位3社で生産量の70%のシェアを占めている  
 ストラエンソーは、全体の約30%を占めている大企業だ

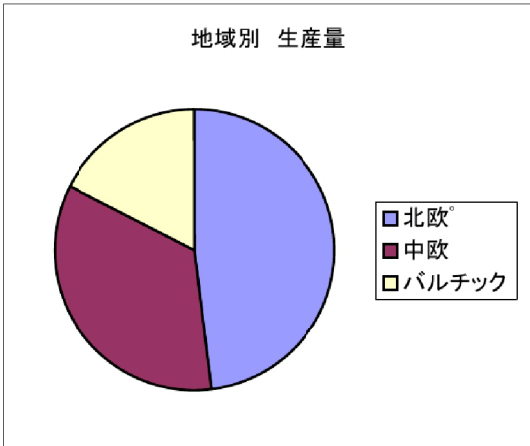
Europe2004 top 10 sawnwood puroducers(2nd quter 2004)1000m3

会社名	シェア	生産量
1 stra ennsø timber	31	4200
2 finnforest	18	2600
3 upm-kymmene	11	2300
4 setra group	10	7000
その他	30	7000
5 klenk holz	6	1500
6 sca timber	6	1400
7 sodra timber	6	1400
8 klausner gruppe	6	1300
9 rettenmeier	3	700
10 vapo timber	3	700
合計	100	23400
4社計	70	16400
6社計	30	7000



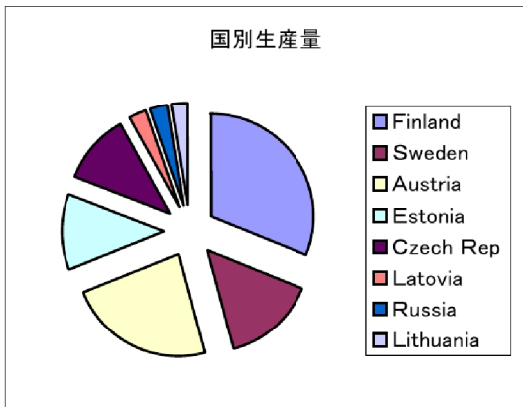
細田通信37号  
 欧州の木材産業の動向  
 ストラエンソー3

ストラエンソーの欧州におけるシェアは31% トータル7380m<sup>3</sup> 2004年 2q  
 生産のキャパシティーは北欧、中欧、バルトも三つに分かれる



地域別生産量

地域	単位千m <sup>3</sup> 生産量	グループ数
北欧	3485	13
中欧	2500	6
バルチック	1275	6



国別生産量

国	単位千m <sup>3</sup> 生産量
Finland	2305
Sweden	1080
Austria	1690
Estonia	900
Czech Re	810
Latovia	215
Russia	200
Lithuania	180

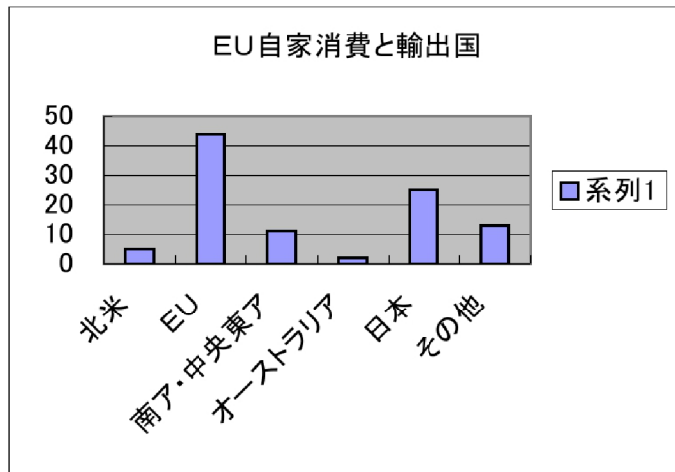
ストラエンソー4

日本は美味しい市場

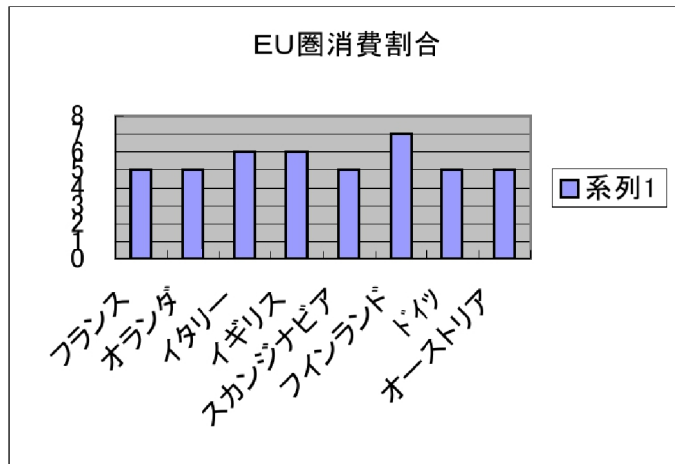
EUの全体の木材生産は完全にオーバーサプライ、EU圏だけでは消化できぬ  
そこで世界各国へ輸出している。なかでも日本は、最大の輸出先で全体の4分の一だ。

輸出先・消費先

国名	割合%
北米	5
EU	44
南ア・中央東ア	11
オーストラリア	2
日本	25
その他	13



EU圏全体	44
フランス	5
オランダ	5
イタリア	6
イギリス	6
スカンジナビア	5
フィンランド	7
ドイツ	5
オーストリア	5



CEOメッセ39号 欧州の木材動向一6

ストラエンソー4

日本の市場が何故美味しいのか

ストラエンソの資料によれば日本の新規住宅着工数は

1,996年をピークにダウンしている

着工数全体では100万戸にダウンの予測

しかしPost&Beamのシェアは2003年・2006年(予測)比では、

Post&Beamのシェアは伸びると見ており、日本市場へ向けて攻勢をかけている

Japanese Housing Starts

単位万戸	2003	割合	2006年予測	割合
non-wood	637		590	
2x4	82		70	
P&W	23		20	
	742	64%	680	63%
P&B	419	36%	400	37%
合計	1,160	100%	1080	100%

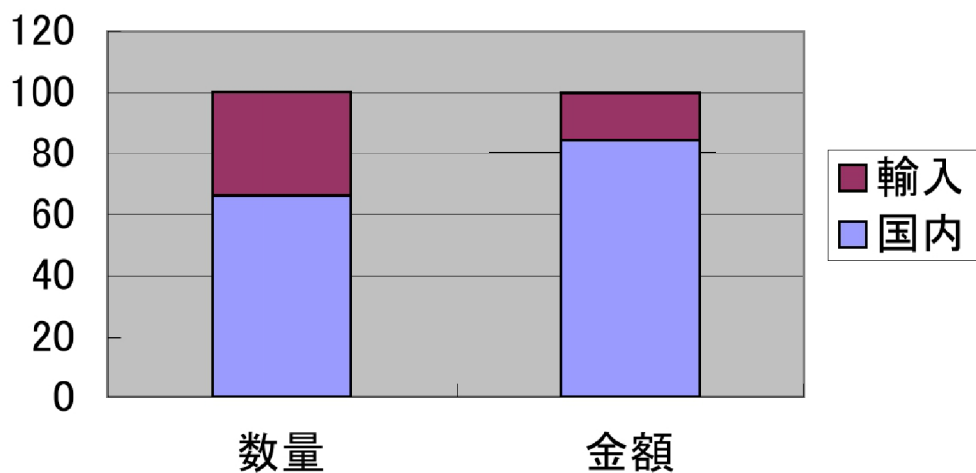
2006年には1%のシェア上昇を予測している

P&Bシェア

2003年	36%	2006年予測	37%
Others	64%	Others	63%

CEOメッセ40号 平成16年 集成材総供給実態				
日集協は、平成16年度の生産量、生産額、輸入量、輸入額を発表した				
住宅着工数、木造住宅着工戸数の伸びにより、生産量5.7%輸入量10%総供給量7.2%伸				
1. 構造用				
●住宅の低価格化	●プレカッタ化の進行	●精度の高い集成材		
2. 造作用				
●化学製品の代替	●和室の減少	●輸入品の増		
1. 生産量	単位千m <sup>3</sup>	前年比%	構成比%	特徴
構造用	1276	7.2	85.8	プレカット率80%
造作用	211	-2.4	14.2	和室減少・化学製品増
合計	1487	5.7	100	木造住宅戸数103.4%
2. 輸入内	生産・輸入額億	生産・輸入量m	構成比額	構成比量
構造用	300	611	94.9	80
造作用	16	157	5.1	20
3. 総供給	生産・輸入額億	生産・輸入量m	構成比額	構成比量
国内	1692	1487	84.2	65.9
輸入	316	768	15.7	34.1
合計	2008	2255	100	100
3. 総供給	数量	金額		
国内	65.9	84.2		
輸入	34.1	15.7		

平成16年集成材総供給





平成 17 年 3 月 27 日

CEOメッセージ 41 号  
愛・地球博 開幕

## 循環資源として木材注目

21 世紀初の万博、愛・地球博は、3 月 25 日より 9 月 25 日までの半年間、愛知県長久手会場、瀬戸会場にて開催される。日本国内での開催は、1970 年大阪万博以来 35 年ぶりである。メインテーマは「自然の叡智」環境に配慮した仕掛けが提案される。目的は、21 世紀の世界が地球規模でどのように進むのか、人類はどのようにして地球と共生するのか、参加 121 カ国が新しい世紀の、未来の文化・文明の創造を「自然の叡智」から提案するものだ。マスコットは、モリゾーとキッコロでいずれも、自然の森から生まれたイメージだ。「自然の叡智」から、8 万本の樹木を、高さ 25 メートル長さ 150 メートルにわたって、環境を象徴する緑の壁をつくり、来場者に安らぎを与えてくれる。巨大な空中回廊は、木材が敷き詰められ、軟らかな歩行感覚から自然の叡智を表現している。自然の造形物である木材が、循環可能資源として注目を集めている。

CEOメッセージ 42号  
新木場木のイベント

3月12日 木のファンである木づかい塾と、カナダツガ協会の主催で、セミナーとツアーを組み合わせたもので、「木のことをもっと知ってもらおう。」そして「もっと使ってもらおう」をメインテーマに、新木場「木のイベント」を開催した。

セミナーでは、三栄ハウス設計部長山口啓三郎工学博士、「木造住宅の免震構造」東京大学内田祥哉名誉教授が「戦後の木造建築に対する制約と変遷」について講演した。ツアーでは、シャトルバス三台で新木場木巡りツアーを行った。普段新木場にくることのない、一般ユーザー、建築、木工関係者などが目で見て手で触れて、木の良さを熱心に、そして充分確かめた。一般客対象のイベントはこんかいが初めてだが、手ごたえは十分に感じられ、このようなイベントを繰り返すことにより、木材の復権につながるものと確信し、次回の開催ができるだけ早く、そして新木場の業界から、より多くの方々が参加されることを、望むものである。最後にイベントを企画実行した皆様方に、深い敬意と感謝を申しあげる次第です。

見て触って楽しい木工品



内田祥哉先生と重ねられるテーブル

